

宿屋には彼らの泊まる所がなかった ルカ2章7節

細井 茂徳

7節「初子の男子を産み——初めての子を産んで——、産着にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる所がなかったからである」。

マタイ福音書と同じように、ルカ福音書もイエスさまの誕生を簡潔に伝えています。マリアが「初めての子を産んだ」とだけ記されています。ですが、その後に続く言葉がとても重要なのです。「産着にくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋には彼らの泊まる所がなかったからである」との記述です。ルカはこの短い描写に深い意味を込めていたとされています。

聖書学者によると、「宿屋」と訳された語(原語では「カタルマ」)には、いくつかの解釈があるようです。一時的な宿泊スペース、文字どおり住む場所としての家を表すこともあります。また、「女性、特に母親や母親の胸、包み込むもの」、「安全・歓待・保護」を象徴することもあります。そこから教会では、この「宿屋」を私たちの「心」と捉えてきました。単なる物理的な場所ということだけではなく、私たちの心の状態を表していると読み解いてきたのです。

また「彼らの泊まる所」とある「所」も深い意味を持っています。「居場所」、すなわちイエスさまが受け入れられる場所という意味合いです。つまりこの箇所は、「この世界の人々の心の中には」あるいは「私たちの心の中には」、生まれたばかりのイエスさまを受け入れるだけの心の余裕がなかった、と解釈することもできます。これは、私たち人間の心のあり方そのものを象徴している、と捉えることもできるのです。